



## 瀬口 哲夫 先生 (名古屋市立大学名誉教授)

専門 都市景観計画、歴史的遺産を活用したまちづくり等

主な経歴 豊橋技術科学大学建設工学系助教授、名古屋市立大学芸術工学部教授などを経て平成23年4月より名古屋市立大学名誉教授。

刈谷市都市計画審議会会長、愛知県文化財保護審議会会長、名古屋市歴史的風致維持向上計画協議会会長等、都市・景観計画に関する各種委員会座長、委員等を歴任。



ひかり結ぶまち

# かりや景観れぽーと

テーマ  
景観の見方

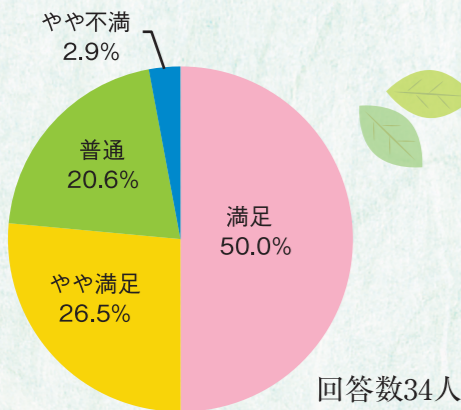
## VOL.23

発行日:平成27年3月1日  
発行:刈谷市まちづくり推進課  
TEL:(0566)62-1022

## かりや景観づくり講座への参加者の声

講座終了後、参加者の方にアンケートへご協力いただきました。ここでその結果の一部をご紹介します。

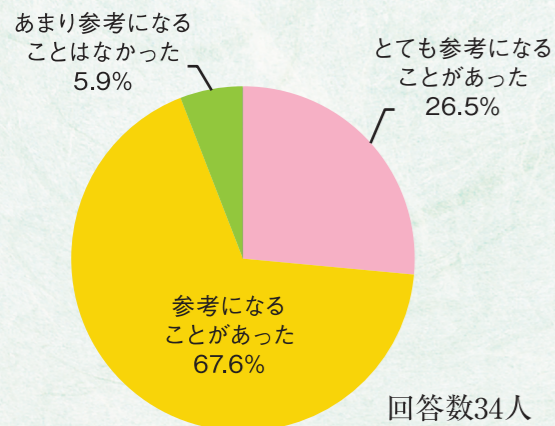
### Q1 講座の内容はいかがでしたか?



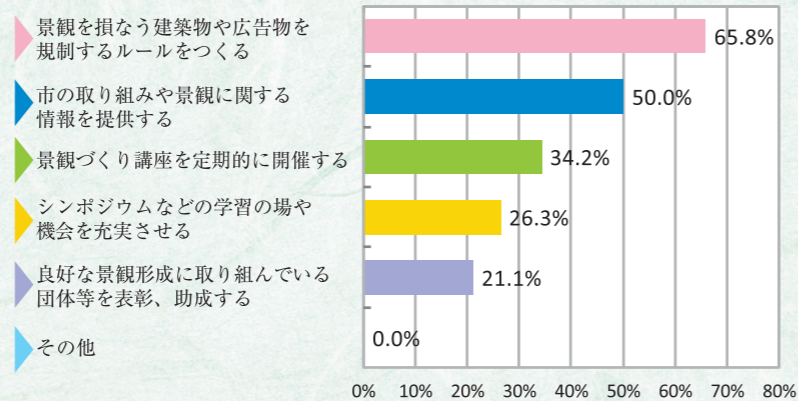
### Q3 参考になったことやご意見をお聞かせ下さい。

- 自分が住む町に対する意識が強まった。いたる所に椅子があり、町歩きを楽しんでもらおうという配慮があった。
- 城を中心としたまちづくり。統一されたまちづくりに対して住民の意思と行政の思惑の一致点を見出すのに苦労されたと思うが、住民の意見も取り入れ進められたのが良かったと思う。
- 景観を良くするために、①長期間②経費③労力等にご苦労されている事を知り、感心しました。刈谷市も電線が無くなり、看板も少なく、花が植えられたり、景観がとても良くなっています。私もクリーン化、グリーン化に努力したいと思います。

### Q2 今後の景観づくりの参考になることはありましたか?



### Q4 景観まちづくりを進めていく上で行政が取り組むと効果的だと思うものは?



### 『景観まちづくり』とは

- ◆自分たちのまちの景観の魅力を楽しみ、貴重な資産として次世代に残せるように、我がまちの景観を維持継承・改善するための様々な取り組みのことです。
- ◆景観まちづくりは、現在の良好な景観を大事に保全することだけではなく、新たに現代的で美しい魅力的な景観をつくり出すことも含みます。

### 『景観法』とは

- ◆平成16年に制定された景観法は、地域の景観まちづくりを支える法律です。
- ◆景観法では、景観形成に向けた基本理念が定められており、これを根拠として地方公共団体の取り組みを後押しする各種制度が設定されています。



今回の景観れぽーとは、平成26年11月に実施した「かりや景観づくり講座」についてご紹介します。

本講座の講師には、東海地方の多数の市町村において景観まちづくりに携わっている名古屋市立大学名誉教授の瀬口哲夫先生をお招きし、彦根市において伝統的なまちなみを再生した『夢京橋キャッスルロード』と『四番町スクエア』、彦根駅前において地区計画による景観誘導を行っている『彦根駅東地区』で景観まちあるきを開催しました。



夢京橋キャッスルロード



# 彦根市



彦根駅東地区



四番町スクエア

### かりや景観づくり講座とは

市民のみなさんに景観形成に対する意識をより高めてもらい、みなさんの手による都市景観づくり活動や、美しい都市景観の創出につながる機会としていただくことを目的に、平成15年度から毎年開催しています。



講義 景観まちづくりについて



【講義内容】 テーマ：『景観とまちづくりルール』について

- 景観とまちづくりについて
- 景観とは、自分たちが住んでいて、居心地がいいと感じることが必要です。
  - 居心地がいいと感じるタイプは一つではなく色々あります。その基本は、緑があり、人間的なスケールであること、個性があること等です。
  - 景観とは、自分たちで守っていくことが基本です。自分たちの街の景観は、自分たちで良くしていき、そして安全性を高めたり、資産価値を維持・向上する必要があります。

景観まちづくりのルールについて

- 景観を悪くする事は簡単ですが、良くする事はものすごくエネルギーがかかります。
- 刈谷市は、駅前はきれいになり、幹線道路の植栽帯は管理されていますが、不必要な看板や建物の色は、ルールで規制した方が良いと思います。
- ルールは、厳しいものから易しいものまでありますが、地域の人たちが合意してルールを作ってみると良いと思います。

当日は、瀬口先生から「景観とまちづくりルール」について講義をしていただきました。



彦根市は、城や社寺をはじめ歴史上価値の高い建造物とその周辺の歴史的な建造物等が相まって、情緒や風情を有する極めて良好な歴史的風致を形成しています。



彦根市役所職員の方に、景観まちあるきを行う地区について、事前に説明をしていただきました。

◆景観まちあるき【四番町スクエア】



四番町スクエアは、夢京橋キャッスルロードに隣接した「大正ロマンあふれるまち」をコンセプトにした街です。大正ロマン風にデザインされた空間に飲食店や食のテーマ館「四番町ダイニング」などが集まっています。

地区のまちづくり構想を具現化するため、古き良き伝統を未来につなげるまちの景観イメージ、建築様式を取り入れて、まち全体で統一感のとれた景観づくりを行っています。



◆景観まちあるき【夢京橋キャッスルロード】



整備前の様子



現在の様子

夢京橋キャッスルロードは、白壁と黒格子、軒の傾斜をそそえ、歴史的な景観を現代に甦らせた新しい城下町です。

夢京橋キャッスルロード周辺の町は、慶長8年(1603年)の彦根城築城とともに城下町が造られたときに、町人の居住区の町割りが始められた歴史的に由緒あるところです。

しかし、町を南北に縦断する道路は、築城時の道幅で、近年の交通事情に対応することができないことから、昭和60年度から街路整備が実施されました。

このまちづくりの特徴は、住民主導で進め、彦根市はまちづくりのアドバイスとまちなみ修景に対して助成を行う役割をしています。

住民は、さまざまな角度から知恵を出し合い、2年にわたり、地区計画の内容や彦根市が定める建築物の制限に関する条例について、住民と行政が話し合いを重ねました。



彦根市役所職員の方に、歩きながらまちなみを案内していただきました。

◆景観まちあるき【彦根駅東地区】



彦根駅東地区は、彦根駅東口の開設計画に合わせて、土地地区画整理事業を実施し、基盤整備と魅力あるまちづくりを行っています。

基盤整備とあわせて地区計画を策定し、建築物の屋根や外壁の色彩、屋外広告物の色彩や形状、敷地周りの緑化などについて、基準を設定しています。

